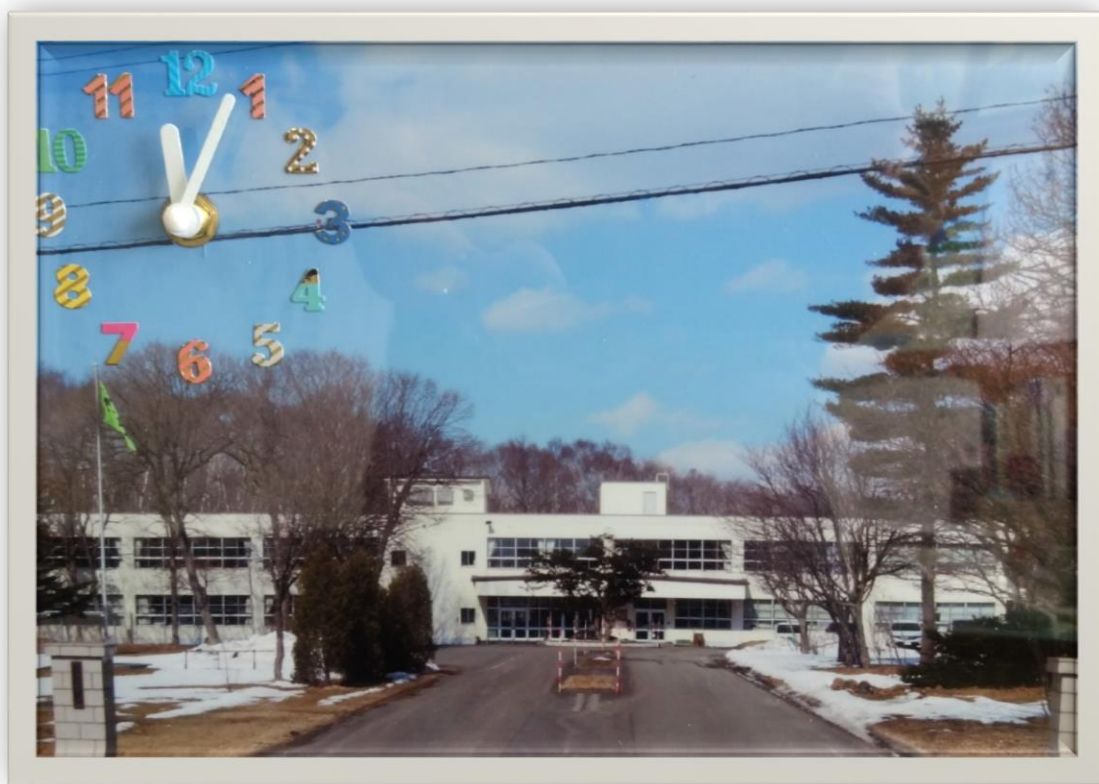


家庭学習の手引き



千歳市立駒里小中学校

家庭学習の手引き

1、家庭学習の手引きについての考え方

小中学校の学習は、将来子どもたちが社会人として自立するための基礎となる大切なものです。

学校でも学習内容が定着するように日々努力しておりますが、家庭学習について家庭と連携を図ることで、より確かなものになるのではないかと考えます。そこで、今年度も「家庭学習の手引き」を作成し、保護者の皆様に配布することにいたしました。

保護者の皆様におかれましては、趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようお願いいたします。

2、家庭学習を通して育てたい姿

- 生活時間を有効に使おうとする
(勉強や読書・手伝いに使う時間が、テレビやゲームに費やす時間より多い)
- 家庭学習の習慣や方法が身についている
- 基礎的・基本的な学習内容が身についている
- より発展的な課題に挑戦しようとする

3、家庭学習を通して育つもの

- 考える力 ○表現する力 ○意欲 ○集中力 ○生活リズム
- 自己コントロール力 ○自己決定力 ○課題発見力・解決力 ○自尊感情

社会人として必要な力・将来への財産

4、基礎的・基本的な学習内容とは

主として学校で学習する内容（教科書に記載されている内容）です。特に、次のような力は、小中学校でつながりをもっているため、それぞれの学年で身につけておくことが望ましいと言えます。

- 教科書に出ているような文章をすらすら読むこと
- 教科書に出てくる漢字を読んだり書いたりすること
- 教科書に出ている内容を使って問題を解くこと
- 自分の考えを正確に伝えること

5、家庭学習の習慣化のために

(1) 習慣化のためのポイント

- ① 学習する時間を決めて、毎日同じ時間帯に机に向かうようにする。
- ② テレビや音楽を消して集中力アップ！
- ③ 小学校中学年以上は、学習の後、自分で答え合わせをする。

※「答え合わせをする意味」

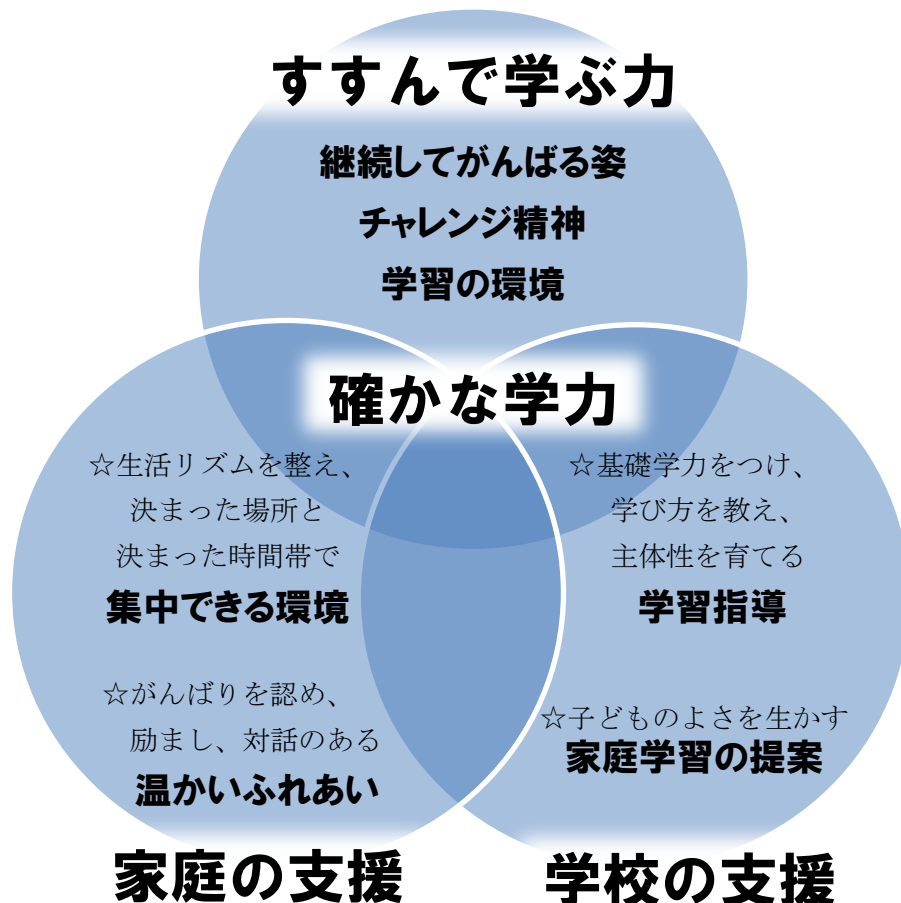
答え合わせは「正解・不正解」を確かめるだけの活動と思われがちですが、実際は、学習内容を理解するうえで重要なものです。

「不正解」だった問題については、「どこが」「どうして」間違ってしまったのかを探ることにより、『自分の理解度』を把握し、弱いところを補強（再考・練習）することへとつながります。そしてこのプロセスが『確かな定着』へとつながっていくのです。

(2) 家庭を「学び」の環境に

すすんで学ぼうとする力は、子どもたちが一番安心できる家庭の中で、安定した生活リズムや日々の学習を積み重ねることで育ちます。また、子どもは家族に認められたり励まされたりすることで、「がんばってよかった」という充足感や「見守られている」という安心を感じ、自分らしさや努力することに自信をもつようになります。

学校と家庭とが協力し合い、共に子どもの「学ぶ力」を大きく育てていきましょう。



(3) 家庭学習の取り組み（プリント渡し→宿題→自主的な家庭学習(自学)→学習準備）

- ① 学校からの手紙をうちの人に渡しましょう。
- ② 「宿題提出100%」が約束です。「宿題」を必ず最初にしましょう。
- ③ 「家庭学習提出100%」をめざしていきます。「家庭学習の手引き」を参考に、自分の“課題や目的”に合った内容を選んで家庭学習ノート(小・中)やワーク(中)に取り組みましょう。
- ④ 次の日の準備(教科書・ノート、筆記用具の整理、道具など)をしましょう。

(4) 取り組む時間（小学校：10分×学年＋10分　中学校：60分×学年＋10分）

小学校　1,2年：20～30分　3,4年：40～50分　5,6年：60～70分

中学校　1年：70分　2年：130分　3年：190分

※ あくまでも目安ととらえてください。興味・関心のある内容、やりがいのある問題に取り組んでいる場合は、それ以上になることでしょう。休日や長期休業中など自由な時間が多い時は、さらに30～60分程度増やせるとよいでしょう。

(5) 家庭学習における保護者の役割

① **学習時間の確保**

部活、塾、習い事等、子どもたちにも予定がありますが、「家庭学習の時間を確保した生活リズムをきちんと作ること」が学習習慣定着のポイントになり、上級の学年や学校にもつながっていきます。「下校してすぐ」「夕食の前」など、勉強する時間帯について事前に話し合っておくとよいでしょう。短時間でも必ず「机に向かう習慣」をつけさせて下さい。

② **学習環境づくり**

テレビをつけながら勉強しても効果は上がりません。お子さんが集中して取り組めるよう、環境づくりを工夫し、協力してあげてください。小学校低学年では、1人よりも家族に見守られながら学習した方が安心できるお子さんもいます。

③ **声かけ・励まし・見届け**

お子さんが学習したことに目を通し、良かったことをほめたり、励ましたりすることで、どんどんやる気を引き出してあげてください。時間がある時には、一緒に課題に取り組んでくださるようお願いいたします。

※定期的に、保護者の皆様にチェックしていただこうと考えています。

(6) 家庭学習における学校の役割

- ① お子さんの学習で、わからないことや困っていることなどがありましたら、学級担任や教科担任までご相談ください。
- ② 放課後や夏・冬休みの「学習会」では、教師の見守りの中で、宿題の取り組みや補充の学習をさせることがあります。

小学校 1・2年生

めあて：基本的な学習習慣を身につける

学習時間のめやす

20～30分
(10分×学年+10分)

ポイント

その①

基本的な生活の習慣を身につける！

「早寝、早起き」「しっかり朝食をとる」「朝の排便」「正しい姿勢で座る」「鉛筆を正しく持つ」「机の上を整とんする」「テレビやゲームの時間を守る」などの基本的な生活習慣を身につけることが、これからの学習の土台となります。

ポイント

その②

愛情のこもったコミュニケーションを！

小学校1・2年生の家庭学習には、家族の手助けが欠かせません。その際、「やったね!」「よくできたね!」などのほめ言葉がすばらしい意欲をうみだします。学習習慣定着のためには、愛情あるコミュニケーションで、ねばり強く働きかけていくことが大切です。

ポイント

その③

家庭に学びの環境を！

大人がお手本となるような「学ぶ」姿勢を見せましょう。家族ぐるみでよりよい学習環境づくりに努めることが大切です。例えば、子どもにあった本を周りにおく、読み聞かせをする、などは効果的です。





家庭学習の内容や方法



1. はじめるまえに

- ☆ がっこうからの おてがみを おうちのひとに わたしましょう。
- ☆ つくえのうえや まわりを かたづけましょう。
- ☆ テレビやゲームの スイッチを きりましょう。

2. がくしゅうする じかん

- ☆ まいにち、20ぷんから30ぷんは がんばりましょう。

3. がくしゅうすること

- ☆ しゅくだいを さきにしましょう。
- ☆ しゅくだいが おわったら こんなことを しましょう。

国語

- 楽しみながら 大きな声で 音読できるようにしましょう。
- 「、」や「。」に 気をつけて、すらすら読めるように練習しましょう。
- 書き順や文字の形に 気をつけて書きましょう。
- 正しい姿勢で ていねいに書きましょう。
- できごとを 文で書けるようにしましょう。

かていがくしゅうが
おわったら おうちの
ひとに みせまじょう。

算数

- たしざん や ひきざん が 正しく書けるようにしましょう。
- 2年生は、九九が すらすらできるようにしましょう。
- まちがった問題は、もう一度やり直しましょう。



4. おわったら…

- ☆ ふではこの えんぴつを けずっておきます。
- ☆ じかんわりを たしかめて、あしたの よういを します。
- ☆ つくえの上や かばんの あとかたづけを します。

小学校 3・4年生

めあて：自ら学習に向かう習慣を身につける

学習時間のめやす

40～50分

(10分×学年+10分)

ポイント

その①

自分でできることは自分で！

小学校3・4年生は好奇心が旺盛で、自立心（自分の力で物事をやってみようとする心）も芽生えてくることから、自分でやろうとすることが多くなります。自分でできることは自分でさせるようにしていくことが大切です。だからといって、任せきりにするのではなく、特につまずきや苦手なことについては、家族の温かい励ましやアドバイスがやる気をおこせるうえでとても重要です。

ポイント

その②

規則正しい生活の再確認と見直しを！

時間を意識させ、けじめをつけさせることは、自立心や学習への集中力を高めることにつながっていきます。特に、テレビやゲームなどの時間を、家族で話し合いながら決めて、自分で守るようにさせていくことが大切です。

ポイント

その③

意欲を引き出す言葉かけを！

学習範囲が広がることで、学習の個人差も出てきます。そのような時には、友だちや兄弟・姉妹と比べたりするのではなく、子どもの「やる気」を見のがさないようにして、ほめたり励ましたりすることが重要となります。





家庭学習の内容や方法



1. 始める前に

- ☆ 毎日、学習する時間を決めて、取り組みましょう。
- ☆ つくえの上やまわりを、きちんと整理整頓しましょう。
- ☆ テレビやゲームのスイッチは切りましょう。

2. 学習する時間

- ☆ できるだけ、毎日、40分から50分は学習しましょう。

家庭学習がおわったら
らおうちの人に見せ
ましょう！

3. 学習内容

- ☆ 宿題を先にしましょう。早く終わったら、下のような学習をしましょう。

国語

- 【音読】○ 今学習しているところを何回読むか自分で決めて、声を出して読みましょう。
(・漢字を正しく・気持ちをこめて・聞いている人に意味が伝わるように)
- 【漢字】○ 新しく習った漢字や覚えていない漢字を練習しましょう。
○ 漢字のへんやつくり、筆順に気をつけて練習しましょう。
- 【読む】○ 好きな本や他の教科書も読んでみましょう。
- 【日記】○ 一日の中で楽しかったことや心に残ったことを日記に書いてみましょう。
- 【意味】○ 国語辞典を使って、意味の分からない言葉を調べましょう。調べたらノートに意味を書いておきましょう。

算数

- 【教科書やドリルの問題】
 - その日に学習したところの問題をといたら丸付けをしましょう。
 - 教科書やドリルの問題をくり返ししましょう。まちがえたら、「どうしてまちがえたのか」を考えて、まちがえなくなるまでやり直しましょう。
- 【プリントやテストの問題】
 - 今までに学習したプリントやテストの問題を、もう一度といてみましょう。
 - まちがえた問題は、何度もくり返し復習しましょう。

その他の教科

- 【社会・理科】
 - その日に学習したところや、今度学習するところを読んでみましょう。
 - 学習に関係のあることや「おもしろそうだな」と思ったことを図鑑や事典・インターネットなどで調べてみましょう。
 - 社会科で学習する地域社会の文化や産業について調べたり、理科で学習する自然にふれる体験をしたりするのもよいでしょう。
- 【その他】
 - 家にある問題集をするのもいいですね。
 - 音楽のリコーダーでならった曲を練習しましょう。

4. 終わったら

- ☆ 時間割を確かめて、教科書、ノートなど忘れ物がないように、明日の学習の準備をしましょう。

小学校 5・6年生

めあて：予定をたて、自力で学習を進める

学習時間のめやす

60～70分
(10分×学年+10分)

ポイント

その①

復習中心の計画的な学習を！～学習時間を決めて～

小学校5・6年生は好奇心や自立心（自分の力でやってみようとする心）も高まり、自分でやるべきことも多くなります。また、学習内容も高度になります。ですから、復習中心にたくさんの内容を効率よく処理していく力が必要になってきます。計画的に取り組みながら、自分に合った学習習慣を見つけさせましょう。学習の悩みも多くなります。高学年にとっても、家族の温かい励ましやアドバイスが、やる気を保つうえでとても重要です。

ポイント

その②

今一度、基本的な生活習慣の見直しを！

～生活にリズムを～

生活のリズムは、決まったことを決まった時刻にすることで身につきます。「起きる時刻」「食事の時刻」「寝る時刻」などを決めて生活しましょう。テレビやゲーム、コンピューターなどの時間がだらだらと長くなりすぎているかも再確認しましょう。

ポイント

その③

意欲を引き出す言葉かけを！

将来の夢や希望、学校での様子、失敗談などをたずねて、家庭で話し合う時間を持ちましょう。その中で、学習の目的を話したり、目標を持って努力することの大切さを伝えてあげてください。その人がどれだけがんばったのかが大切な点です。伝記（偉人伝）などを読ませ、人の生き方に関心を持たせるのもよいでしょう。





家庭学習の内容や方法



1. 始める前に

- ☆ 毎日、学習する時間を決めて、取り組みましょう。
- ☆ 机の上やまわりを、きちんと整理整頓しましょう。
- ☆ テレビやゲームのスイッチは切りましょう。

家庭学習が終わったらお家の人に見せましょう！

2. 学習する時間

- ☆ できるだけ、毎日、60分から70分は学習しましょう。

3. 学習内容

- ☆ 宿題を先にしましょう。早く終わったら、家庭学習をしましょう。

国語

- 朝読み、夕読み・・・教科書を音読し、音読カードや家庭学習ノートにサインをしましょう。
- 詩や俳句、短歌などを暗唱したり、朗読したりしましょう。
- 漢字の構成や字形を意識して練習しましょう。それが終わったら、その漢字を使って短文を作ってみましょう。
- 視写はとっても大切です。教科書や新聞の記事など、字数を決めて視写に挑戦してみましょう。
- いろいろなジャンルの本を読んでみましょう。(知識のはばを広げましょう)

算数

- 計算プリントや計算ドリルを使って、くり返し練習しましょう。
- 自分で答え合わせをし、間違った問題はもう一度チャレンジしてみましょう。

その他の教科

- 社会や理科など、自分から調べ学習をして知識を身につけましょう。
- 国語辞典をはじめ、いろいろな辞典(事典)をどんどん活用しましょう。
- 演奏できる楽器が一つでもあると生活がゆたかになります。
- 家庭科で学習したことを、家で実践してみましょう。また、自分でできそうな家事に挑戦し、学んだことを役立てましょう。

4. 終わったら

- ☆ 忘れ物がないよう、時間割を確かめながら明日の学習準備をしましょう。

中学校 1 年生

目標：計画的・継続的な学びを進める

時間のめやす

70分以上
(60×学年+10分)

ポイント

その①

すぐに復習する習慣をつけよう！

中学校に上がり、学習内容のレベルや量に困惑する生徒が多いです。いわゆる中1ギャップにならないよう、少しずつ中学校の学習に慣れていきましょう。習ったことはその日のうちに復習します。また、短いスパンで単元を振り返り、習ったことを忘れないようにする努力も必要です。すらすら解けるようになるまで繰り返し問題を解きこなしましょう。

ポイント

その②

学校・先生のプリントを有効活用する！

学校で配られるプリントには、学習のポイントが整理されています。小学校と同様に、ファイルなどにきちんと整理して活用することが大切です。毎日の復習はもちろん、テスト勉強の際にも見直すなど、有効に活用しましょう。

ポイント

その③

問題を解いた後がもっとも大切です！

「どこが、どうして違ってしまったのか」「どう考えると間違わなかったのか」を考え、振り返ることで、理解が深まり感覚が磨かれます。

分からない時は、分かるところまで戻って解くことも大切です。間違ったところは必ず見直しをし、問題に印を付けておきましょう。印を付けた問題を先生や友達に相談したり、テスト前に重点的に確認するのもいいでしょう。





家庭学習の内容や方法

(例)



国語

- （読む）授業で取り組んでいる文章を声に出して読む。本にも親しみましょう。
- （書く）教科書に載っている新出漢字を5回繰り返して書きましょう。
ワークにある短作文を書く問題に取り組みましょう。

社会

- （予習）教科書を読み（次の時間に学習する範囲）、太字、むずかしい語句や、わからない語句をチェックしましょう。
- （復習）教科書とノートを見比べて、学習した内容を振り返りましょう。
 - 学習した範囲のワーク整理をしましょう。
 - 小テスト等に向けた重要語句の確認をしましょう。

学校においてある家庭学習用のプリントも大いに活用しましょう！

数学

- 毎日続けることが重要です。
- 授業中に解いた問題を家庭学習用ノートに書き出して、もう一度解いてみましょう。
- テスト前は、ワークの問題をもう一度解いてみましょう。
- 正解しなかった問題には印を付けておき、繰り返しチャレンジしてみましょう。
- テスト前は、解けなかった印のついている問題を中心に復習しましょう。

理科

- 学校で学習した内容について、その日のうちにきちんと復習しておきましょう。
- ワークには基本的な問題がたくさんあるので、1度だけでなく、何度も繰り返して問題を解き、頭にしっかり入れておきましょう。
- まとめの単元プリントを何度も行い、その単元が理解できているかを確認しておきましょう。

英語

- その日の学習内容を振り返りましょう。文法や単語・熟語の意味を確認し、音読練習と筆写をしましょう。
- 宿題や授業中「×」だった問題やスペリングミスの直しをしましょう。
- 授業でやった本文の音読には、すらすら読めるようになるまで取り組みましょう。
- ラジオ、テレビなどでネイティブの英語を聞く時間を設定しましょう。

中学校 2年生

目標：計画的・継続的な学びを進める

時間のめやす

130分以上
(60分×学年+10分)

ポイント

その①

すぐに復習する習慣を身につけよう！

1年生に引き続き、復習中心型の家庭学習を続けましょう。その日のうちに教科書・ノート・プリント・ワークなどで学習のポイントを整理することにより、授業の理解度や定着が大きく違ってきます。自分で別の問題集を用意し、違った傾向の問題を解いてみるなど、復習の形態や幅を広げるのも効果的です。

ポイント

その②

学校・先生のプリントを有効活用する！

学校で配られるプリントには、学習のポイントが整理されています。バラバラにならないように、きちんと整理して、活用することが大事です。毎日の復習はもちろん、テスト勉強の際にも見直すなどして、有効に活用しましょう。

ポイント

その③

問題を解いた後がもっとも大事です！

「どこが違っているのか」「どうして違ってしまったのか」「どう考えると間違わなかったのか」を考え、振り返ることで、理解が深まり感覚が磨かれます。分からない時は、分かるところまで戻って解くことも大切です(1年生の教科書に戻ることもあります)。間違ったところは必ず見直し、印を付けておきましょう。印を付けた問題はわかるまで解こなし、テスト前には重点的に確認するようにしましょう。



家庭学習の内容や方法

国語

- （読む）授業で取り組んでいる文章を声に出して読む。本にも親しみましょう。
- （書く）教科書に載っている新出漢字を5回繰り返し返して書きましょう。
ワークにある短作文を書く問題に取り組みましょう。日記や手紙を書くこともおすすめです。意識して背筋を伸ばして書きましょう。

社会

- （予習）教科書を読み（次の時間に学習する範囲）、太字、むずかしい語句や、わからない語句をチェックしましょう。
- （復習）教科書とノートを見比べて、学習した内容を振り返りましょう。
 - ・学習した範囲のワークを整理しましょう。
 - ・小テスト等に向けた重要語句の確認をしましょう。重要語句を説明できるようにしましょう。

家庭学習用のプリントや前学年のプリントも大いに活用しましょう！

数学

- ・毎日続けることが重要です。
- ・授業中に解いた問題を家庭学習用ノートに書き出して、もう一度解いてみましょう。
- ・テスト前は、ワークの問題を少なくとも2回は解いてみましょう。
- ・正解しなかった問題には印を付けておき、繰り返しチャレンジしてみましょう。
- ・テスト前は、この印のついている問題を中心に復習しましょう。

理科

- ・学校で勉強した内容について、その日のうちにきちんと復習しておきましょう。
- ・ワークには基本的な問題がたくさんあるので、1度だけでなく、何度も繰り返し問題を解き、頭にしっかり入れておきましょう。
- ・まとめの単元プリントを何度も行い、その単元が理解できているかを確認しておきましょう。

英語

- ・その日の学習内容を振り返りましょう。文法や単語・熟語の意味を確認し、音読練習と筆写をしましょう。
- ・宿題や授業中「×」だった問題やスペリングミスの直しをしましょう。
- ・授業でやった本文の音読には、すらすら読めるようになるまで取り組みましょう。
- ・過去の単語やイディオムを見直しましょう。
- ・ラジオ、テレビなどでネイティブの英語を聞く時間を設定しましょう。

中学校 3年生

目標：進路に向けて目標を明確にして取り組む

学習時間のめやす

190分以上
(60分×学年+10分)

ポイント
その①

進路の目標を具体的に決めて、計画を立てる。

進路の目標がはっきりしないと具体的な計画は立てられません。目標は早く決めて、目標に向けて何が不足しているのか、何が必要なのか、現在の自分の力をよく考え、努力すべき点を明確にすることが大切です。そのためにも、家族でしっかりと話し合しましょう。

ポイント
その②

生活リズムを整え、上手な時間の使い方を工夫する。

睡眠不足だと疲れが取れず、集中力も続きません。また、朝食を抜くとエネルギー不足となり、脳の活動が悪くなります。自分の力を最大限に伸ばすために生活リズムを整え、家庭学習の時間やテレビ等の視聴時間など、上手な時間の使い方を工夫しましょう。

ポイント
その③

3年生の学習内容と1・2年生の復習を両立させ

部活動引退前、部活動引退後、長期休業中など、時期によって時間の使い方を工夫しましょう。自分にあった方法を早期に確立し、中学3年間のまとめの学習になるようにしましょう。

【例】引退前は、平日に3年の復習を、休日に1・2年生の復習をする。
引退後や長期休業中は1・2年生の復習を中心にする。



家庭学習の内容や方法



国語

- ・漢字は繰り返し書いて覚えましょう。
- ・長文の読み取り、古典などを声に出して読もう。
- ・単元別の薄い問題集に繰り返し取り組みましょう。

社会

- ・重要な語句をノートなどにまとめて整理し、暗記しましょう。
- ・重要語句を説明できるようになりましょう。
- ・教科書や資料集を繰り返し読んで、内容の理解に努めましょう。

数学

- ・毎日続けることが重要です。
- ・四則計算を中心に、計算力アップを目指しましょう。
- ・数学の公式は繰り返し使って覚えるようにしましょう。
- ・文章題は、同じ問題や似た問題を問題集などで解いてみましょう。

理科

- ・学校で勉強した内容について、その日のうちにきちんと復習しておきましょう。
- ・ワークには基本的な問題がたくさん載っているので、1度だけでなく、何度も繰り返して問題を解き、しっかりと頭に入れましょう。
- ・実験、観察の図やグラフなどの資料を読み取る力を付けましょう。

英語

- ・単語や文型などは、繰り返し書いて覚えましょう。
- ・授業で学習した文や文章は、意味まとまりを意識しながら音読しましょう。
- ・英文を日本語に直したり、日本語を英文に直したりしてみましょう。
- ・リスニング教材、ラジオやテレビ、ネットを利用し聞く時間を設定しましょう。



～中学校資料編～

次ページ以降は、中学校の最初の授業に配布したオリエンテーション資料です。各教科の特性や学習方法についてより詳しく紹介していますので、どうぞ参考にしてください。

また、教科ごとに評価基準や評価の方法についても解説しています。中学校に興味のある小学校の保護者の方にもご一読していただくと幸いです。

国語 学習の手引き (オリエンテーション資料)

1. 国語の授業の受け方

- ① 友達の意見をよく聞くこと
積極的に質問したり、発表すること (間違いをこわがらないで)
疑問点・言葉の意味のわからないものはすぐ、辞典を引くこと
- ② その時間にわからないことは時間内に解決すること
(先生にきく・友達にきく)

2. 家庭学習

- ① 課題は必ず取り組むこと
- ② 学習したところは必ず音読すること
- ③ 新出語句や難しい言葉はワークやノートに辞典を使ってまとめておくこと
辞典を引くことがとても大切です
いくつもの意味が書いてあります、文章の前後を読んで、一番ふさわしい意味を見つけること

3. 文章の種類ごとの学習方法

① 言 詩

1. 感想をもつこと
2. 詩に出てくることばの意味は辞典にのっている意味だけではなくて、その言葉が表す独特のものを感じるようにする
3. 詩のリズム感をつかむこと。音読する
4. どんな表現技法が使われているか
(表現技法が使われているところに作者の感動の中心や主題にかかわってくることが多い)
5. 主題をつかむ
6. 学習後にもう一度感想を書く

② 短歌・俳句

1. それぞれ、一句一句を意識して読む
2. ノートに書き写して見る
3. 表現技法を探す
4. 言葉にない描かれている情景・感情を読み取る

③ 小説・物語

1. 語句の意味を理解する
2. 感想をもつ
(印象に残ったこと・考えたこと・疑問に思ったこと・わからなかったことなど)
3. あらすじをつかむ
4. 場面ごとの情景や・登場人物(主人公)の気持ち(気持ちの変化)を読み取る
5. 主題(作者が最もいいたいこと)を読み取る

④ 随筆

1. 中心的な部分と付け足し(具体的な例)の部分かを読み分ける
2. 作者の「ものの見方」「考え方」を読み取る
3. 自分の意見と比べてみる

⑤ 説明的文章

1. 小段落ごとの要点を、「中心文」「重要語句」(キーワード・キーセンテンス)を探して、まとめる
2. 大段落どうしの関係を接続語(つなぎのことば)や指示語(その など)を手がかりにして全体の関係をつかむ
3. 全体の要旨をつかむ

⑥ 古典

1. かなづかいのちがいを理解する
2. 語句の区切りを考えながら、正確にくりかえし読む
3. 文学史的な意義や、時代背景を理解する

⑦ 漢字の書き取り

1. 漢字を、正しい筆順で、一画一画ていねいに書いて練習する。
2. 音読み・訓読みを理解する
3. 漢字を覚え方は「熟語」でおぼえる。必ず書いて練習すること。

⑧ ことばのきまり

1. 文章・段落・文・文節・単語の単位を理解する
 2. 授業で学習したことを、必ず復習する
 3. 内容を理解したら、練習問題を解いてみる
- *ことばのきまりは、一度しか学習しないところですから、わからないことや、質問をどんどんして、わからないままにしておかないことが大切です。

⑨ 作文

1. 自分の日常生活の中から、心を動かされる内容を、簡単にメモをする習慣をつけて、いざ書くときに困らないようにする
2. 「何を書こうとするのか」をしっかりと考えて、書こうとする文章の主題をはっきりとさせてから書き始める
(主題は、簡単でよいので文章として書き留めておく)
3. どのような順番で文章を書こうとするのかという構想を考える。
文章の組み立て
4. 実際に原稿に書いてみる。(この時はあまり細かいことを考えずに、どんどんと書き進める。細かいところは後で直したりするくらいの気持ちで書く)
5. 推敲する
書き上げたら、読み返し、文字や語句の間違いがいがないかどうかを確認する
6. 清書する

*授業の持ち物(基本) ・教科書 ・ワーク ・ノート(大学ノートなど) ・漢字ノート 4点
*ノートについて 他の教科と混ぜないで、「国語のノート」として用意すること 辞典は、家庭にあるものでよいが、新しく購入する予定のある者は、どこの出版社の辞典でもよいが、「第3版」のように数字が書いてあるので、その数字が一番大きな辞典が、その種類での最新の辞典ですので目安にしてください。
*書写 習字セット・紙ばさみ・書写の教科書 (基本 小学校で使用した物でよいが、筆は状態をみて購入してもらってもいいかもしれません)

数学科 学習の仕方

1. 学習の目的

日常生活では、数の計算や筋道を立てて考えていかねばならないことなど、数学で目指す能力と密接に結びついていくことが数多くあります。したがって、数学を勉強するねらいは受験のためではありません。

2. 学習の内容

数学は「数と式」「図形」「数量関係」に分かれています。

数と式	数量関係	図形	資料の活用
1年 ・ 正の数、負の数 ・ 文字と式 ・ 方程式	・ 比例と反比例	・ 平面図形 ・ 空間図形	・ 資料の整理と活用
2年 ・ 式の計算 ・ 連立方程式	・ 1次関数	・ 平行と合同 ・ 三角形と四角形	・ 確率
3年 ・ 式の計算 ・ 平方根 ・ 2次方程式	・ 関数 $y = ax^2$	・ 相似な図形 ・ 三平方の定理 ・ 円	・ 標本調査

3. 数学に興味・関心を持つために

- 数学を好きになろう！
『できたぞ！』『わかったぞ！』という感動を大切にしてください。
簡単な問題から取り組んで、それをくり返して数学を好きになってください。
また、数学は答えが1つしかなく、クイズ感覚で取り組むこともできます。
- 「わかる」ことと「できる」ことは別！
「授業では分かったのに…」となげく人がよくいます。授業を聞いていれば、新しい数学用語や計算法則が出てきても「わかった」ような気になっ
てしまいます。
ところが、新しい用語や定理が「わかる」ことと、それらを「使える」
こととは別のことです。スポーツでも、技を知っていても使えなければ意味
がありません。数学だって「使える」ようになるために、何度もくり返し
試す必要があります。

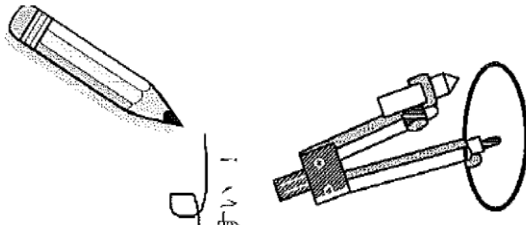
4. 評価・評定について

観点ごとに、達成の度合いを判断して最終的に5段階で評定をします

観点	評価	主な評価の方法
数学への関心・意欲・態度	学習準備ノート ワーク 小テスト ワーク 授業での活動	ワークシート ワーク 授業での活動
数学的な見方や考え方	定期テスト ワークシート 小テスト ワーク 授業での活動	ノート・ワーク ノート・ワーク 授業での活動
数学的な表現・処理	定期テスト ワークシート 小テスト ワーク 授業での活動	ノート・ワーク ノート・ワーク 授業での活動
数量・図形などについての知識・理解	定期テスト ワークシート 小テスト ワーク 授業での活動	ノート・ワーク ノート・ワーク 授業での活動

5. ここで差が出る数学・勉強のコツ

- 教科書・ノート・ワークは毎時間持つてくる！
章によっては、コンパス・三角定規(2種類)も必要です！
 - 集中方 → 休み時間と授業時間のけじめをつける！
- 【授業編】
- ノートは大学ノートが望ましい！ドットノートは描きやすい！
 - 途中計算を省略しないこと！
 - 丁寧な字でかき、自分専用の参考書をつくらう！
 - 右利きの人は、ノートの左半分に大きく図をかこう！
自分の腕で見えにくいということもなくなるぞ！
- 【ノート編】
- 予習：宿題は必ずやらう！
教科書に目を通しておこう！
 - 復習：授業があったその日とテスト前に復習しよう！
ワークなどに同じような問題があったらやらせてみよう！



数学の学習の仕方 ～ もっと詳しくすると ～

1. 数学科でなにを学ぶか

- (1) 日常生活に必要な数量の関係を正しく、すじみちを立てて考えられるようにする。
- (2) 数量の関係を文字などを用いて表すことを理解し、その技能も高めるようにする。
- (3) 数量や図形についての性質や関係(基礎的な原理・法則)を用語や記号を用いて表現したり、その理解を深める。
- (4) 数学が生活に役立てることを知り、学習によって得たことを活用し、応用できるように心がける。

2. 数学科の学習の仕方

※ 忘れ物を無くし、貸し借りせずに授業に望みましょう。
数学の授業では、数式や関数、図形などでいくつかの学習のパターンがあります。共通していることは次のことです。

- (1) 今まで学習してきたことの中から、今日の課題と関係のありそうな知識や考え方を思い出して整理する。
- (2) 整理したことの中から、課題の解決に使えものはないかを考えをめぐらしてみよう。
- (3) 計算したり、図をかいたりして自分の力で課題に向かう。
- (4) 計算や証明をするときは、理由や途中の計算式をかき残しておく。後になって、それを見て、自分の考えたあとをふりかえることができる。
- (5) 解決が困難だった問題(正しい結果が得られなかった問題)は、先生の説明や友達発表から、自分で気づかなかつたところをよく吸収し、必ずやり直しておくことが大切です。

3. ノートの使い方

数学の学力は、何本の鉛筆を使い、何冊のノートを使ったか、その量で分かるといわれます。教科書の余白などに薄い文字、数字でちよこちよこつとかいて答えだけをノートに書く人をたまに見かけます。そういう人は余白程度のちよこちよこしか身に付きません。
知識を理解するためには、「みる、きく、かく」というように書くことが非常に大切な要素になります。

- (1) 大学ノート(ルーズリーフは禁止)に、H以上の鉛筆を使う。
- (2) かこみ、ラインなどは、色ボールペンを使用してかく。ただし、たぐさんの色は使わない。

- (3) ノートは答えだけでなく、問題(文章題はのぞく)計算の途中、考え方、作図などをかくようにする。
- (4) 素早くかくことも大切ですし、定期テスト前に確認できるように工夫していつとも使えるように見やすくする必要があります。
- (5) グラフ用紙やいろいろいるな学習資料なども、ノートに貼る。切り取りたりして上手に貼るようにする。バラバラにならないように気をつけるが、一カ所にまとめて貼るようなことはしない。

4. 家庭学習の仕方

学校での授業だけで、数学に強くなれば理想ですが、なかなかそうはいきません。「わかる」と「できる」はすこし違うのです。自分で分かっている人と安心していても、テストで失敗することが多いと経験している人もたくさんいます。

「わかった」から「できる」まで、多くの問題に挑戦しなければなりません。また数ヶ月前に学習したことを再びやらなければならないことも多くあります。ですから数学のあつた日は1時間程度、数学について学習する習慣をぜひ身につけてください。

(1) 復習

- ・ ノート、教科書をみながら間違つたところ、よく理解できなかったところ、時間不足でやれなかつたところをきちんと整理する。
- ・ 余裕があれば問題練習を多くおこない力をつける。(問題集の利用)
- ・ 分からなかつたところをはつきりさせて次回に先生に聞いたり、友達に聞いたりする習慣を身につけよう。

(2) 予習

- ・ 例、例題の解決手順をよく読んでみる。

理科 オリエンテーション

1、 理科学習目的

理科は自然のいろいろな現象を通して、その根底にある規則性（法則性）を探り出す学問です。みんなが目で見たこと、体験したこと、新聞や書物、人の話に聞いたこと等いろいろな事実や現象から、どうしてそのようなことが起きたりあったりするのか、その原因や理由を考え実験、分析を通して規則性を見出すことです。つまり、既知の事象を適用して新たな疑問や事実を解明していく力をつけることを目的として教科です。

2、授業の受け方

(1) 授業の進み方と受け方

- ①課題は何か、どのようなことかをつかむ。
- ②課題に対する自分の考え方（仮説）ともつ。
- ③実験、観察の方法を理解し安全に配慮して進める。
- ④必要に応じて結果の処理をするとともに後始末をする。
- ⑤課題に対応させて学習（実験、観察）をまとめる。
- ⑥学習活動の自己評価する。

(2) 注意事項

- ①忘れ物をしないようにしよう。(教科書、ノート、ファイル、ワーク)
- ②先生の話をしっかり聞いて、理解しよう。
- ③移動教室は余裕を持って移動しよう。
- ④実験室、実験用具を大切にしよう。
 - ・実験機には、たとえ鉛筆でも落書きをしない。
 - ・指示されていない機器に触れない。
 - ・破損してしまったときには、すぐに先生に連絡をする。
 - ・後始末は元の（指定された）場所に戻す。
- ⑤実験準備、実験、後始末は協力して行う。

(3) ノート（ワークシート）の書き方

- ①ノート（ワークシート）は授業中の説明のあとに書く時間をとるので、丁寧に書くこと。
- ②学期ごとにノート（ワークシート）点検があります。プリントなどをなくさないようきれいに貼ること。
- ③一番重要は赤いペンで、次に重要な語句は青いペンで書こう。
- ④必ず、日付をかき、黒板以外の説明も重要だと思ったらメモしよう。

4月9日 1章 生物のからだの仕組み



ウサギのスケッチ

スケッチや図を描くときはなるべくきれいにかく。

忘れた場合は、先生に言って紙をもらい、帰ったら

理科 評価・評定について

(1) 理科の学習で身につけてほしい力

- 自然事象への関心・意欲・興味を持つこと
- 科学的な思考ができること
- 実験・観察の技能・表現ができること
- 自然事象の知識・理解ができること

(2) 理科の評価・評定については、上の4つの観点についてそれぞれ評価をし、評定を出していきます。

具体的には

○自然事象への関心・意欲・興味について 【評価割合 25%】

※授業に対して意欲的に参加しているかどうかを評価します。

具体的評価場面→ 発表、忘れ物、実験の様子

○科学的な思考について 【評価割合 25%】

※予想する力、見通しを持つ力を評価します。

具体的評価場面→ 実験プリント、定期テスト、小テスト

○実験・観察の技能・表現について 【評価割合 25%】

※実験・観察の技能やまとめ方を評価します。

具体的評価場面→ 実験の様子、実験プリント、定期テスト、小テスト
パフォーマンステスト

○自然事象の知識・理解について 【評価割合 25%】

※基礎的な知識が身についているかどうかを評価します。

具体的評価場面→ 定期テスト、小テスト

(3) 以上の評価割合を合計すると、100%になります。そして、それをもとに以下のよう
に評定をつけていきます。

85%以上・・・5

70～85%未満・・・4

40～70%未満・・・3

15～40%未満・・・2

15%未満・・・1

令和2年度 社会科 オリエンテーション資料

○社会科学習目的

社会科は、地理分野・歴史分野・公民分野の3分野を学びます。各学年で一つの分野を取り扱うではありません。1・2年時は、地理分野と歴史分野を交互に取り扱い、3年時は、歴史の第二次世界大戦以降と公民を行います。覚える語句が多いにも関わらず、多くの資料を読み取る技術も必要です。わからないことがないように学習に取り組み、家ではしっかりと復習していきましょう。

○学習方法について

① 学習用具について

- 地理分野：教科書、ノート、地図帳・・・・・・・・・・・・・・・・・・4点
- 歴史分野：教科書、ノート・・・・・・・・・・・・・・・・・・3点
- 公民分野：教科書、ノート・・・・・・・・・・・・・・・・・・3点

② 授業は、教科書に則り進みますので、ノートとワークを使って復習してください。ノートは、地理分野と歴史分野の2冊を用意してください。

③ ノートの書き方は、1時間で見開き2ページを使うこととし、左ページは地図やメモ、復習に使い、右ページには学習シート（毎時間配られる）を貼ってください。重要語句は、赤ペンなどを使って目立たせて理解し、覚えるようにしましょう。聞きながらメモを取れるようになってください。

④ 授業の流れは、1,ニュースの発表(公民)、2,小テスト、3,課題の確認、4,課題解決の取り組み、5,まとめ、6,評価のような流れになります。

1,毎朝新聞の第一面を読んで、大切なことを文章化してみましよう。現在国内外で起こっているニュース(政治・経済・国際問題など)などに目を向けてもらいたいと思います。(公民)

2,小テスト：毎時間基本的に行います。前時の勉強を振り返っておきましょう。

3,課題の確認：その授業の中で何が分かればよいのかを確認します。

4,課題解決の取り組み：基本的には、学習シートに沿って学習していきます。

5,まとめ：学んだことを課題に沿ってノート3行程度に文章化(まとめ)します。

6,評価：今日の授業の自己評価をします。

○評価について

以下の4観点で、A・B・Cで評価し、その総合点で5段階評価します。

- ①関心・意欲・態度（提出物、ノート記述、ワークへの取り組み、学習への意欲）
- ②思考・判断・表現（社会的事象についての正しい考え方、判断、適切な表現）
- ③技能（資料、グラフ・表などの読み取りや作成、活用の技能、その他への応用技能）
- ④知識・理解（小テスト、単元テスト、定期テスト、夏冬休み課題テスト結果）

各観点のパーセンテージは以下の通り

A：80%以上 B：40%以上80%未満 C：40%未満

○復習をする。（自分の言葉でまとめる。）・・・・・・・・・・ノートの左下の部分へ復習にワークを行うだけの人もありますが、ぜひ自分の言葉で授業の中でわかったことをノートにまとめてもらいたいと思います。自分の言葉でまとめることができれば、授業の内容が理解できたということになります。

英語科オリエンテーション資料

1, キーワード ”やる気・根気”

- やる気は目的・目標を持つことから得られる
- “practice makes perfect”* 習うより慣れよ

2, 入試対策 くじけそうになってもまた再開

- 家庭学習は根気よく毎日 **音読・筆写** テスト前は**問題を多く解く**
- 語彙数と基本文**を覚える **文法（用語、語順、訳）**を理解する
- リスニング・長文対策をする ★検定試験に挑戦しよう

3, ノート

- 1年生は英語用ノート 2、3年生は自由

4, 評価について

- 関心・意欲・態度
 - ・ワーク、語トレの提出
 - ・音読テストの暗記量
 - ・課題、会話、スピーチ原稿の量と期限
- 表現の能力 【スピーキング・ライティング】
 - ・音読テストの正確さ
 - ・会話やスピーチ原稿の正確さ
 - ・単元テスト、定期テスト
 - ・夏休み暗唱テストの結果
- 理解の能力 【リスニング・リーディング】
 - ・単元テスト、定期テスト
- 知識・理解 【語彙・文法】
 - ・語彙と基本文の筆記テスト（Lessonごと、長期休業中）
 - ・単元テスト、定期テスト

成績

評定	目標に対する到達度	%	観点別
5	十分に満足できると判断されるもの	85以上	A 80%以上
4	十分に満足できる判断されるもの	70以上	
3	おおむね満足できると判断されるもの	<u>40以上</u>	B 40%以上
2	努力を要すると判断されるもの	15以上	C 40%未満
1	一層の努力を要すると判断されるもの	15未満	

家庭学習チェックシート（保護者用）

末永く「家庭学習のしおり」をご使用いただくために、保護者の方向けチェックシートをご用意いたしました。ご家庭でお子様と勉強について話し合う際や、担任とご相談される際の目安としてご活用ください。

- お子様と一緒に、家庭学習の方法や目安時間を確認されましたか。
- 必要に応じて、「家庭学習のしおり」を見直していますか。
- いつでも見直せるように、決まった場所にしおりを置き、家族全体で管理していますか。
- 普段から、お子様の家庭学習の時間数や内容を把握していましたか。
- 保護者の方から見て、お子様は自分に合った家庭学習の仕方を身につけていると思われますか。